MESA/BOOGIE®

Royal Atlantic™

取扱説明書

Hello from the Tone Farm

MESA/Boogieのアンプを選択されたあなたは、とても賢明なプレーヤーであり、且つ、直感力に優れた方です。それと同時に、アンプ・メーカーとしての我々に、絶大なる信頼を頂いているという事ですね。我々は、その期待を重く受け止めています。このアンプを選択して購入されたという事は、このアンプがあなたの音楽を表現する体の一部になったという事であり、同時に、あなたはメサ・ファミリーの一員になったのです。メサ・ファミリーへようこそ！我々の目指すゴールは、決してあなたを幻滅させる事はありません。偉大なアンプのオーナーになった今、メサの先人達が築き上げてきた様々な真空管アンプの伝統、そしてその上に新たに積み上げられた技術の全てを、あなたは享受出来るのです。これから、このアンプがあなたの音楽制作を触発し、多くの喜びを与えてくれる事は間違いありません。それは、これまで培ってきたあなたの奥底に眠る音楽に対する意欲や情熱を導きだす事であり、我々はその手助けが出来ればと願っています。...私達の新たなる友へ捧げます。

使用上のご注意

この説明書を読んで下さい。

この説明書をなくさない様に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従って設置して下さい。

暖房機器や、他のアンプなど、熱を発する機器の近くに置かないで下さい。無理やり、形の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは２つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のものです。自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず10センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意：安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意：必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。そうしないとアンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

解体したり、ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい。

動作中にチューブに直接触れないで下さい。

子供に触らせないで下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取るのに溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏に表示されている条件を満たすAC電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

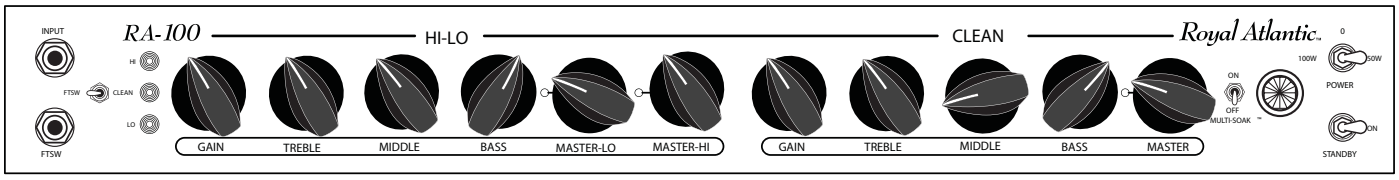
大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。

Mesa/Boogieアンプはプロスペック用の機材ですので、規定に従って扱って下さい。

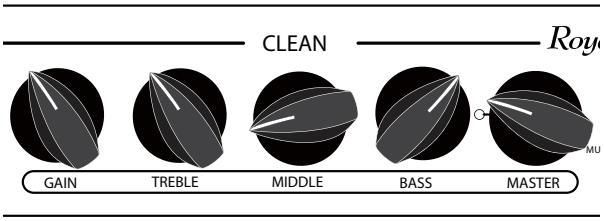
上記の取り扱い注意事項と安全管理事項を必ず読んで下さい!

フロントパネル: コントロールと特性

チャンネル/モード：

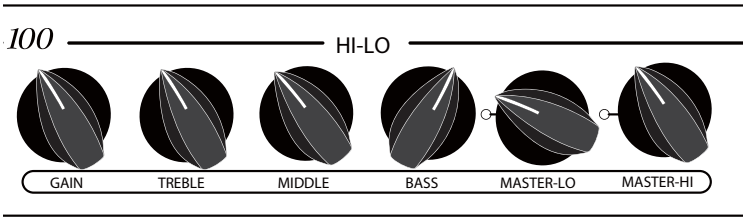


CLEAN CHANNEL（クリーン・チャンネル）：



クリーン・チャンネルは、Royal-Atlanticに搭載されている3つのモードの中でも最もゲインが低く、60年代中期における"Black Face"をベースとした回路により、ヴィンテージ風のクリーン・リズム・プレイに適したサウンドとなっています。

HI/LO CHANNEL（ハイ/ロー・チャンネル）：



HI/LOチャンネルは、ブリティッシュ風のミッド・ゲイン・クランチ・リズムとハイ・ゲイン・ソロ・サウンドの２つのモデルで構成されており、幅広いサウンドが得られます。

LO（ロー）：

ロー・モードではフレキシブルなブリティッシュ系の音作りが可能で、ゲイン設定により音が大幅に変わります。７：３０時～１０：３０時の間の設定でビンテージ風なクリーン・サウンド、１０：３０時～２：００時でダイナミック・クランチと２：００時～５：００時でヘビー・リズムとリードサウンドが得られます。

HI（ハイ）：

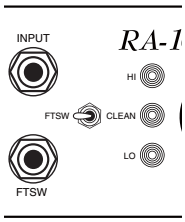
モディファイされたブリティッシュ系のアンプをベースにしたモードです。ハイ・モードでもう一つのゲイン・ステージが回路に追加され、ロー・モードよりヘビーな音作りが出来ます。ゲイン・コントロールを８：３０時～１１：００時に設定するとブルース・クランチ、１１：３０時～１：３０時で激しいリズムクランチとダイナミック・ソロ・サウンドが得られます。リード・サウンドには１：３０時～５：００でのセッティングがお勧めです。

注意：MULTI-SOAKを使用し、パワー・アンプ・セクションで歪みを上げる際は、ゲインを低めに設定することをおすすめします。

フロントパネル: コントロールと特性

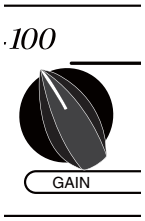
コントロール部分:

チャンネル選択:



フットスイッチが接続されてない時にチャンネル/モードの選択が出来ます。またフットスイッチでチャンネル/モードの切り替えを行いたい場合は、フットスイッチを接続した状態でミニ・トグルスイッチをCLEAN（クリーン）側に設定しておくようにしてください。

GAIN（ゲイン）:

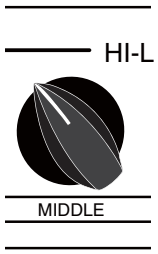


ゲイン・コントロールで各チャンネルのゲインの調整が出来ます。

TREBLE（トレブル）:

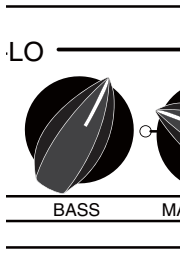
トレブル・コントロールで高音域を調整出来ます。

MID（ミッド）:



ミッド・コントロールで中音域を調整出来ます。

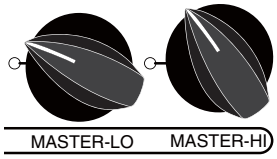
BASS（ベース）:



ベース・コントロールで低音域を調整出来ます。

フロントパネル: コントロールと特性

MASTER（マスター）:

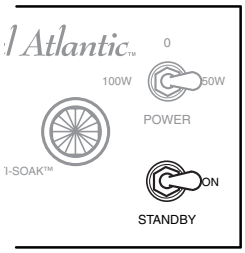


マスター・コントロールで各モードの全体的な出力レベルを調整出来ます。

MULTI-SOAK ON/OFF:

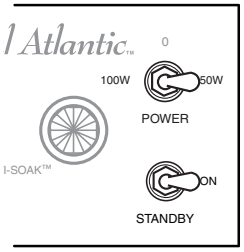
MULTI-SOAKアッテネーターのオン/オフの切り替えが可能、オンに設定した際はバックパネルにある３つのロータリー・コントロールの設定が有効になります。

STANDBY（スタンバイ）:



STANDBYスイッチは、真空管をウォームアップするための非常に重要なスイッチです。電源スイッチをオンにする際は必ずこのスイッチがSTANDBYの状態になっていることを確認してください。電源を入れてから、最低でも３０秒以上の間隔をおいてから、このスイッチをオンにする様にして下さい。この状態がオンのまま電源を入れると、真空管にダメージが加わり、真空管の早期摩耗や劣化、または故障につながる恐れがあります。良質なサウンドを長期間維持するために、必ず上記の用法をお守りください。

POWER（電源スイッチ/５０W・１００W切り替え）:



電源スイッチは、３つのポジションで切り替え可能なトグル・スイッチを使用しています。このスイッチはAC電源をROYAL ATLANTICに供給すると同時に、パワー・セクション出力の選択を行います。

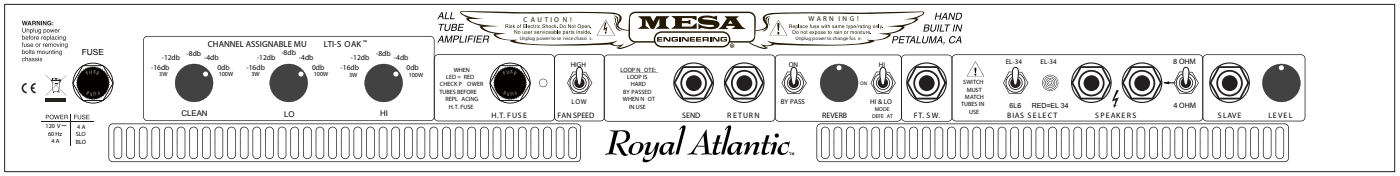
このスイッチを真ん中の“O”と表示されている位置にすると、電源がオフになります。

１００Ｗのポジション（左）にすると、１００ワットの動作をし、大きなパワーとヘッドルームのクリーンで甘いサウンドを生み出します。このポジションでは、４本のEL34パワー管を全て駆動し、最も音楽的な“１００ワット”ステージを実現しています。

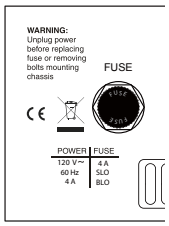
50Wのポジション（右）にすると、2本のEL34パワー管の動作で５０Wの出力になり、残りの２本のパワー管がスタンバイに入ります。

バックパネル: コントロール、スイッチと端子

バックパネル　ROYAL ATLANTIC RA-100 コンボ:



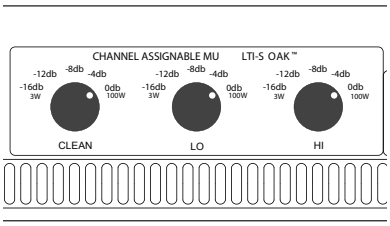
ヒューズ:



これはA.C.(交流)のメイン・ヒューズであり、外部の突発的な過電圧等からパワー管を保護する役割を果たします。ヒューズが破損したらSlo-Bloタイプの同じ規格のものと交換して下さい。日本国内の１００ボルト仕様には、４アンペアのSlo-Bloヒューズを使用して下さい。ヒューズの破損が原因と見られるパワー管の破損が起きた場合は、次の手順を踏んで下さい。STANDBY(スタンバイ)のセクションでも触れましたが、STANDBY(スタンバイ)からオンに切り替えた時のパワー管の状態を見て下さい。この時パワー管が正常でないと確認出来たら、即座にSTANDBY(スタンバイ)にして、パワー管を交換し、必要に応じてヒューズの交換も行ってください。

パワー管に特に異常が見られなければ、STANDBY(スタンバイ)からオンに切り替えて下さい。この場合、パワー管の損傷によりヒューズが飛んだことが考えられます。念のために隣の真空管、あるいは"ショットガン"トラブル・シューティングで全ての真空管を交換して、損傷していない真空管を、予備として保管するのも一つの方法です。予備の真空管は、同じく予備のヒューズと一緒に保管しておくと良いでしょう。

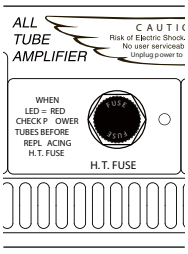
MULTI-SOAK (アッテネーター):



この3つのスイッチは各モードにおいてアッテネーター機能をアサインすることが出来ます。０dBに設定するとROYAL ATLANTICがフル・パワーで起動し、４段階で最大-16dBまで出力を下げることが出来ます。-16dBに設定すると約３Wの出力になります。

注意:アッテネーターを常時-12/-16dBで使用し続けるとパワー管の消耗は早まり、約２ヶ月～４ヶ月を目途にパワー管の交換が必要となります。

H.T. FUSE (ハイ・テンション・フューズ):



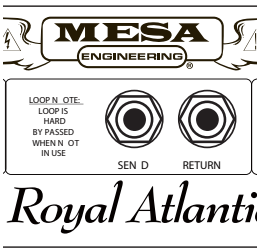
パワー管が故障、破損した際に、H.T.ヒューズが切れLEDが赤く点灯すると同時に、パワー管故障によるサーキットへのダメージを保護します。LEDが赤く点灯したらパワー管の故障ですので、速やかに電源を落とし、コンセントを抜き、手順に従ってパワー管およびH.T.ヒューズの交換を行ってください。

FAN SPEED (ファンの速度):

この２つのポジションで切り替えられるトグル・スイッチでファンのスピード(速度)のHIGH/LOW(ハイ/ロー)の切替が可能です。真空管の状態を適正に保つため、HIGHに設定しておくことをおすすめします。

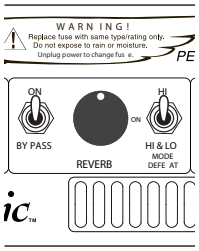
バックパネル: コントロール、スイッチと端子

EFFECTS LOOP（エフェクト・ループ）:



ワウやコンプレッサー、あるいはゲインに影響するエフェクター以外のエフェクターをこのエフェクト・ループに接続する事をお勧めします。ディレイやリバーブやコーラスなどをエフェクト・ループで使用することにより、良質なサウンドが得られます。

REVERB（リバーブ）:



この３つのコントロールでROYAL ATLANTICのリバーブ・セクションの全ての設定を行います。
ON/BYPASS（リバーブ・オフ）のスイッチおよびリバーブ・レベルコントロール、またリバーブのモード切替スイッチが装備されています。

モード切替スイッチで下記の設定が出来ます：

HI - HI/LOチャンネルで HIモードでリバーブがが無効、CLEANとLOモードで有効（オン）なります。

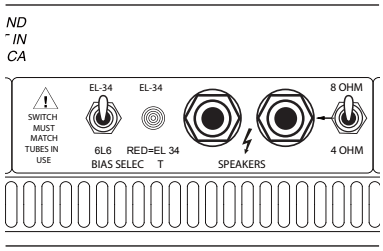
ON - リバーブが全てのモードで有効なります。

HI/LO - この設定でリバーブがCLEANモードのみで有効になり、HI/LOモードで無効（オフ）になります。

FTSW（フットスイッチ）:

付属のフットスイッチを接続するための端子です。
フットスイッチでは、チャンネル、及びモードの切り替えを行う事が出来ます。

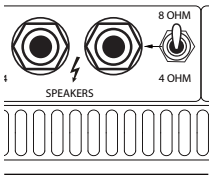
BIAS SELECT（バイアス選択）:



このスイッチは、４本のEL34パワー管を6L6パワー管に交換する際に使用します。ヨーロッパ・スタイルのEL34のサウンド・キャラクターは、アメリカン・スタイルの6L6と異なったサウンドキャラクターを持ち合わせています。6L6は、中高域に音質特性があり、低音域のレスポンスに優れ、高次倍音が強調されたサウンドになっています。エッジの効いた攻撃的なサウンドは、ミディアム・ゲインのコード・サウンドに最適です。
３つのモード全てにおいて最もバランスのとれたサウンドは、6L6パワー管により生み出される、美しいクリーン・サウンド、太いクランチ・リズム・サウンド、そして丸いボーカル・リード・サウンドといえるでしょう。

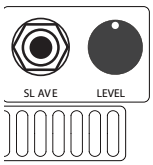
バックパネル: コントロール、スイッチと端子

SPEAKERS/IMPEDANCE SELECT（スピーカー/インピーダンス選択）:



スピーカーケーブルでこのジャックとスピーカー・キャビネットを接続し、スピーカーのインピーダンスに合わせトグル・スイッチの切替を行います。インピーダンス・マッチング・スイッチは、８オームか４オームの切替が可能です。このスイッチはアンプの動作中に切り替えても、アンプを損傷する事はなく、切り替える事によりインピーダンスのミスマッチによるサウンド・キャラクターの変化を把握することができます。
メサ4x12のスピーカー・キャビネットを使用する場合は８オームに設定し、８オームのスピーカー・キャビネットを２台使用する場合は４オームに設定します。メサのキャビネットは概ね８オームとなっていますが、2x12キャビネットの中には４オームの製品もいくつかあります。他メーカーの製品で１６オームのものは８オームの端子に接続して下さい。ただしこの場合は、アンプの出力を全て使い切る事は出来ません。１６オームのキャビネットを２台使用する場合は、合成抵抗が８オームになりますので、インピーダンスのマッチングをとることができます。

SLAVE（スレーブ/出力レベル）:



LEVEL（レベル）コントロールされたアンプの全回路（プリアンプとパワー・セクション）を経たサウンドが出力されますので、エフェクト・プロセッサーや他のパワーアンプに接続する事が出来ます。スピーカー出力から派生した信号を、レベルつまみで調整することにより、用途に応じた出力に設定することができます。

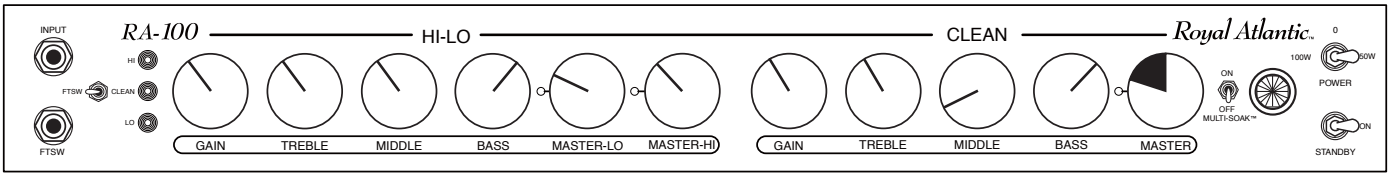
SLAVE（スレーブ）出力は“スピーカー・シミュレーション”ではありませんので、この信号を “レコーディング出力”として使用する事は出来ません。ギター用のスピーカーはトップエンドがかなり減衰する特性があり、また超低音域に関しても出力がカットされやすい特性を持っています。このことから、ギターアンプの出力設定は高域が強調された音質特性をもっています。また、出力信号のレベルそのものも相当高くなっており、SLAVE（スレーブ）のレベル・コントロールをかなり絞り込まないと、オーバーロードによりミキサーのインプット・セクションに損傷を与えてしまう可能性があります。SLAVE（スレーブ）出力は、他のアンプやエフェクト・プロセッサーに接続する様にして下さい。

ノート: SLAVE（スレーブ）出力を使用してエフェクト・プロセッサーに接続する場合、その出力はEFFECTS RETURN（エフェクト・リターン）に接続しないで下さい。この接続を行うとフィードバック・ループが発生し、高音のハウリングが起こります。

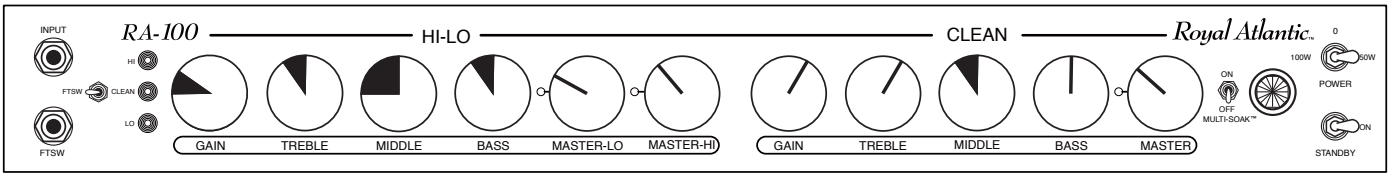
ノート: SLAVE（スレーブ）出力を使用する場合は、必ずSLAVE（スレーブ）レベルを絞りきった状態から徐々に上げる様にして下さい。 SLAVE（スレーブ）から出力される信号のレベルは非常に高く、この設定が高くなっていると、いきなり過大な音が出て耳を痛めたり接続されている機器を損傷する可能性があります。

サンプル・セッティング

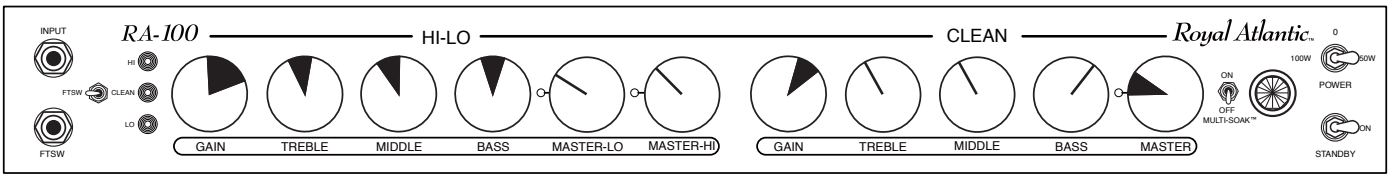
Bright Clean, Tight Crunch, Brit Lead



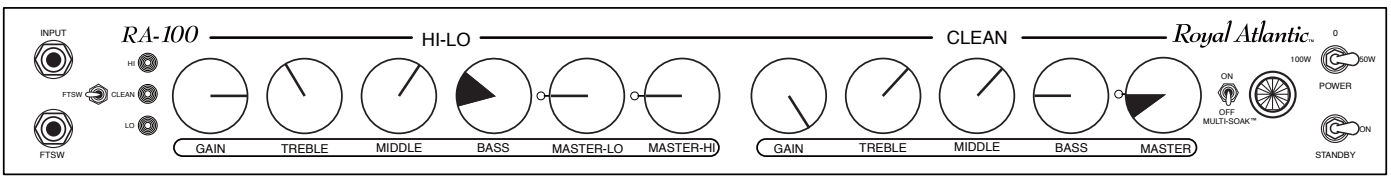
Punchy Clean, Edge, Urgent Lead



Fat Clean, Grind, Molten Solo

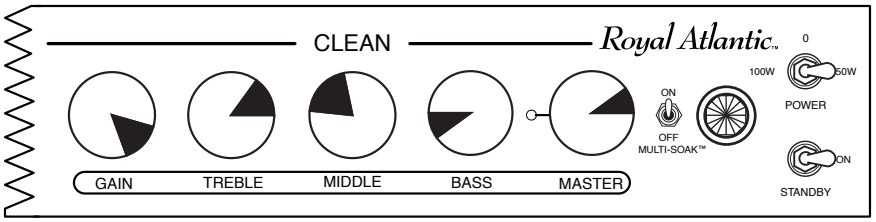


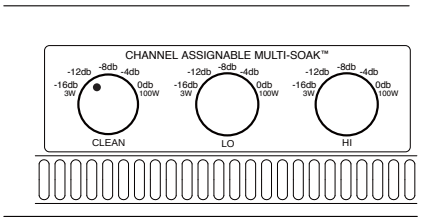
Clipped Clean, Rock Lead, Ridiculous Gain



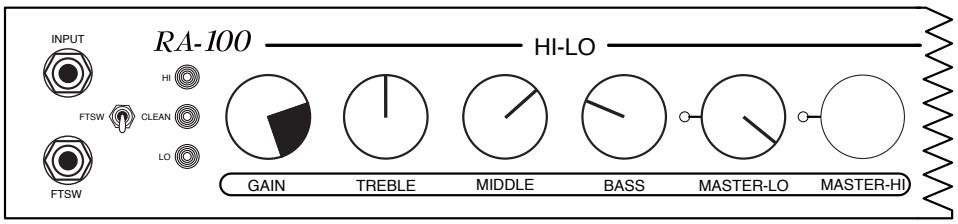
MULTI-SOAK サンプル・セッティング

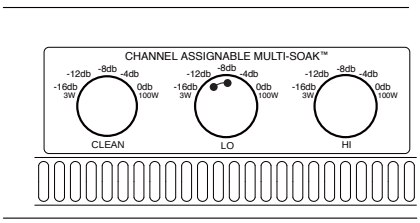
Power Drive Clean



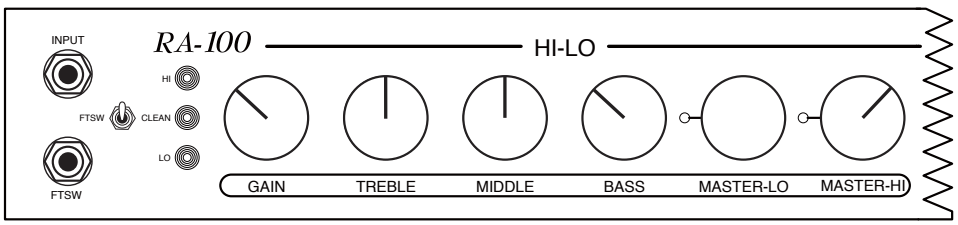


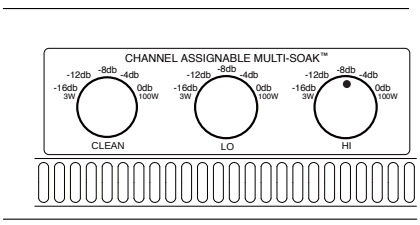
LO Power-Solo



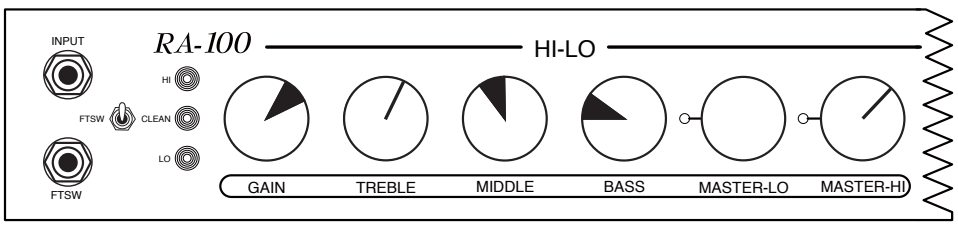


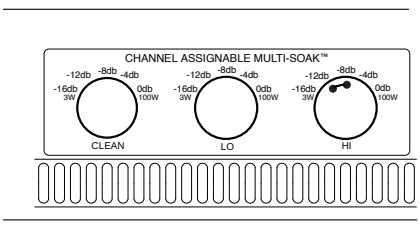
HI Power-Drive



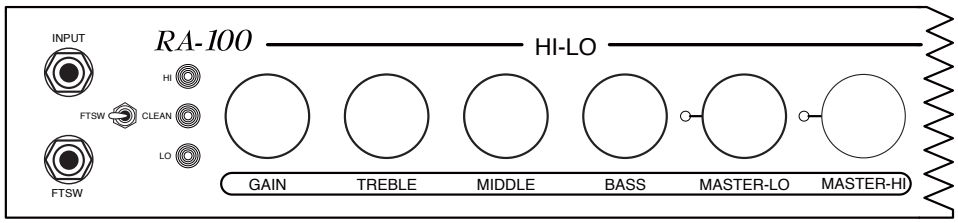


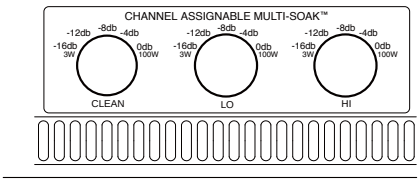
HI Liquid Gain

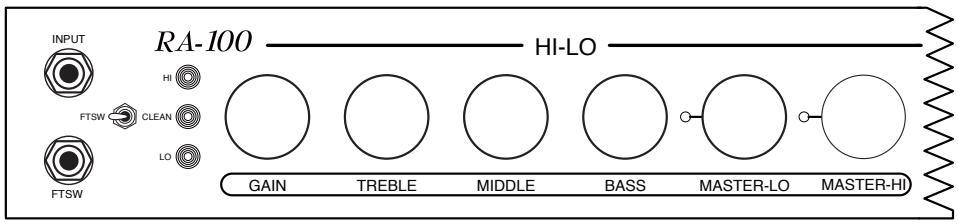


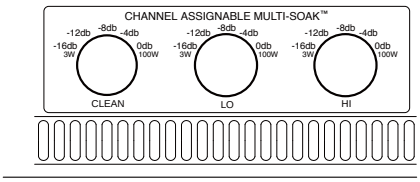


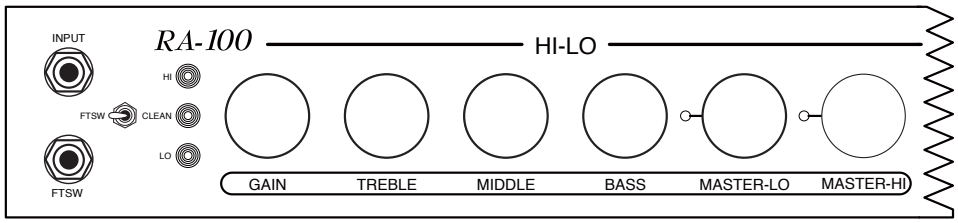
ユーザ・セッティング・テンプレート

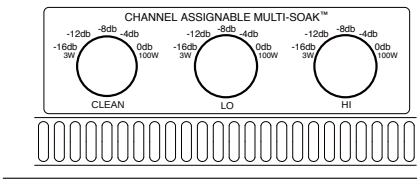


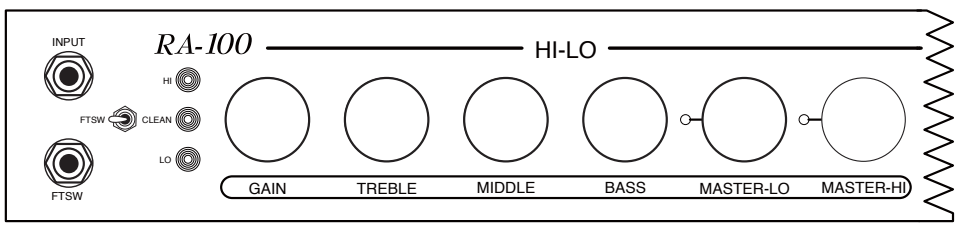


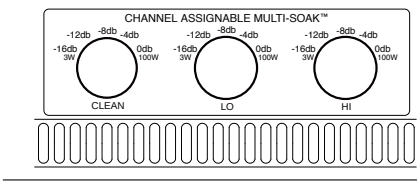




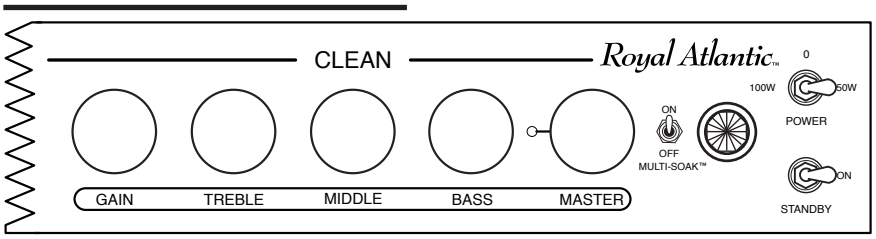


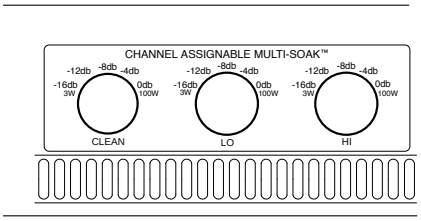


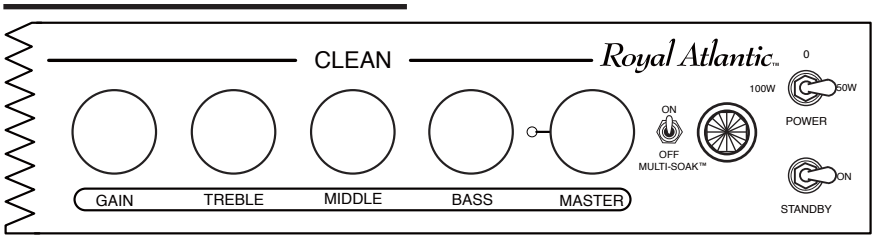


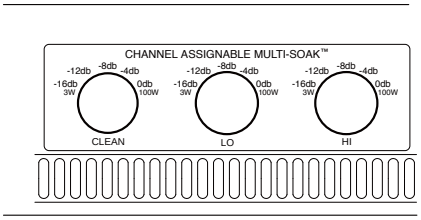


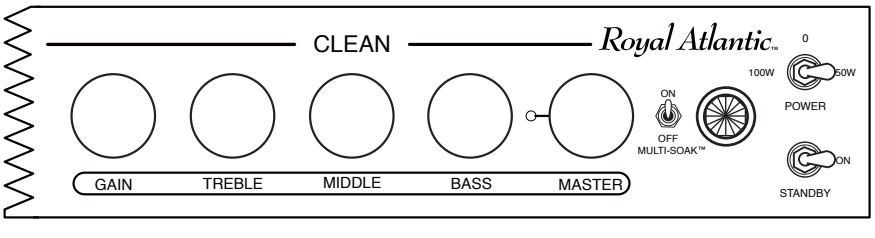
ユーザ・セッティング・テンプレート

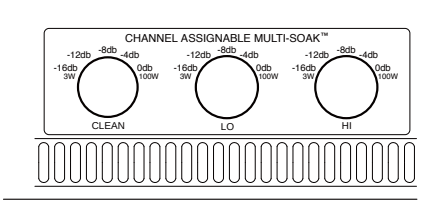


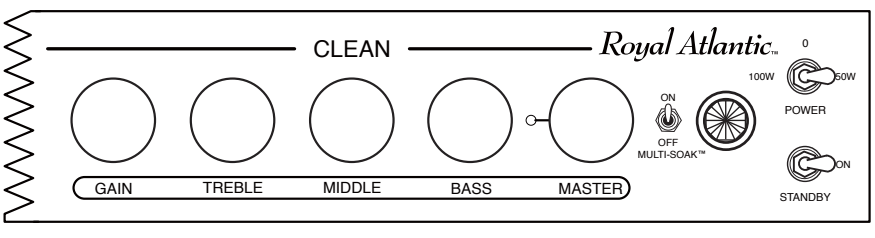


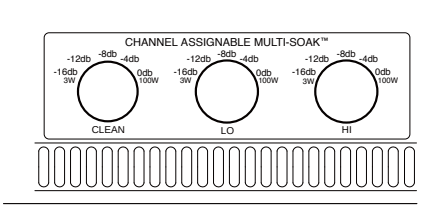












スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド:

インピーダンス:

スピーカー接続において最も基本的で重要なのは、位相を正相にする事です。これにより素晴らしい音を出力する事が可能になります。これはそんなに難しい事ではありません。負荷についていくつかの事と、最適な負荷でスピーカーを接続する事を理解すれば良いのです。

MESA/Boogie アンプは、４オームと８オームを扱う事が出来ます。真空管アンプは、４オーム未満でドライブする事はしないで下さい。;これを行うと、出力トランスを損傷する可能性があります。２オームを扱う事の出来る数少ないアンプ（例えばMESA（メサ）のBass 400+）であれば大丈夫です。反対に高い抵抗値（例えば１６オーム等）の場合はアンプを傷める事はありません。

ミス・マッチング:

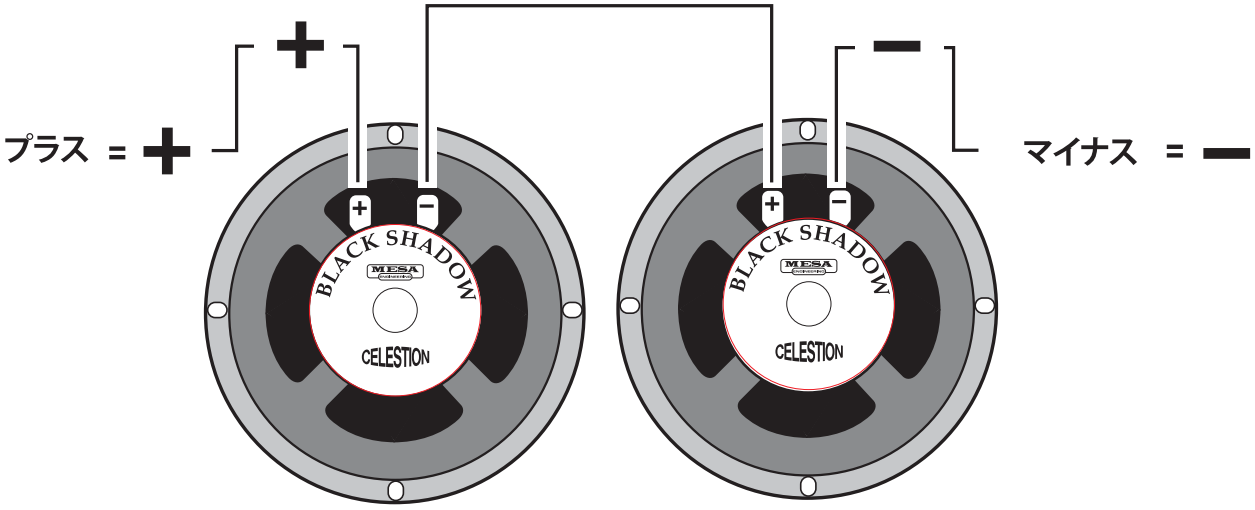
高い抵抗値（例えば８オーム出力を16オームのキャビネットに接続）でドライブすると、少しフィーリングが異なり、レスポンスが際立った感じになります。少しのミス・マッチであれば、トーンが若干暗く、出力とアタックが少し弱く、レスポンスが少し速くなる程度です。スピーカー・キャビネットが複数になると、ミスマッチは選択肢の１つになるほどです。

キャビネット・インピーダンスの算出方法:

お持ちのスピーカーが１台の場合は、そのスピーカーのインピーダンスとアンプのインピーダンスを合わせて下さい。複数のスピーカーをお持ちの場合は、アンプにかかる負荷を計算しなければなりません。複数のスピーカーの接続方法は次の３種類になります。:

シリーズ（直列）:

スピーカーを直列に接続した場合、それぞれのスピーカーのインピーダンスを単純に加算します。例えば、８オームのスピーカーを２台直列に接続した場合は、16オームになります。



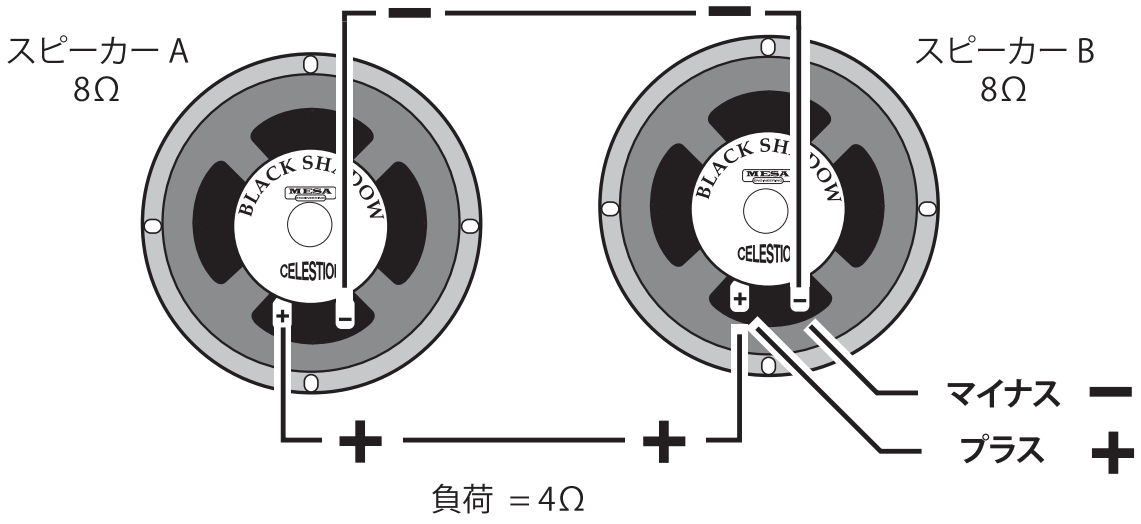
スピーカー A = 8Ω　　スピーカー B = 8Ω

シリーズ（直列）: スピーカーAのマイナス端子と
スピーカーBのプラス端子を接続

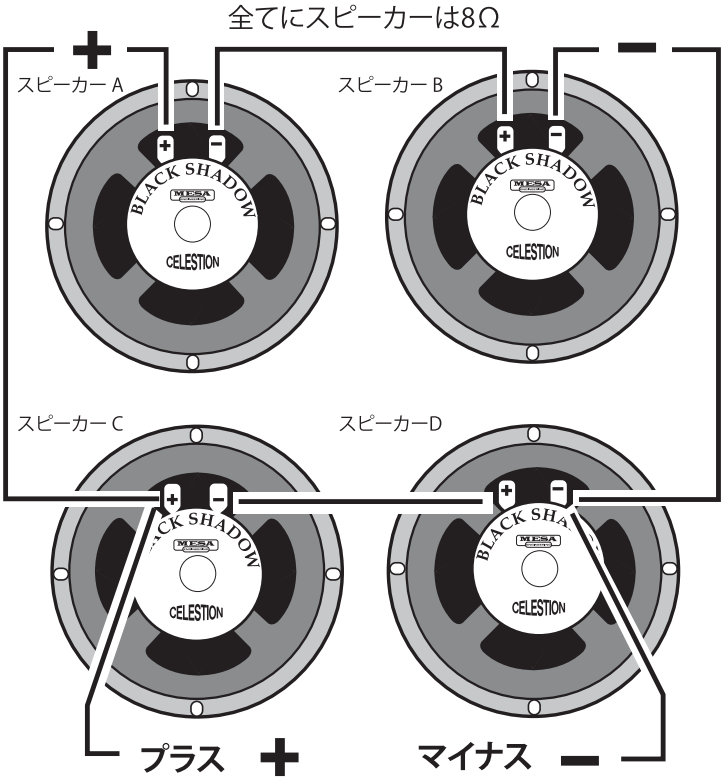
スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド（続き）:

パラレル（並列）:

スピーカーを並列に接続した場合、スピーカーの抵抗値は下がります。２台の８オーム・スピーカーを並列に接続した場合、負荷は4オームになります。接続するスピーカーが全て同じ抵抗値であれば計算は簡単ですが、異なる抵抗値のスピーカー（例えば、8オームと4オーム、16オームと8オーム等）を並列に接続する場合は、少しややこしくなります。計算式は、それぞれの抵抗値をかけ算した数値を、それぞれの抵抗値を足し算した数値で割ります。例えば８オームと４オームであれば、8×4÷（8+4）=2.6666オームになります。パラレル（並列）：スピーカーAのプラス端子とスピーカーBのプラス端子、スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのマイナス端子をそれぞれ接続。



シリーズ（直列）とパラレル（並列）の組み合わせ:



これは、２セットの直列接続したスピーカーを並列に接続する組み合わせです。ここで重要なのは、全てのスピーカーの合成抵抗値が低くなり過ぎてアンプに負担をかけない様にする事です。

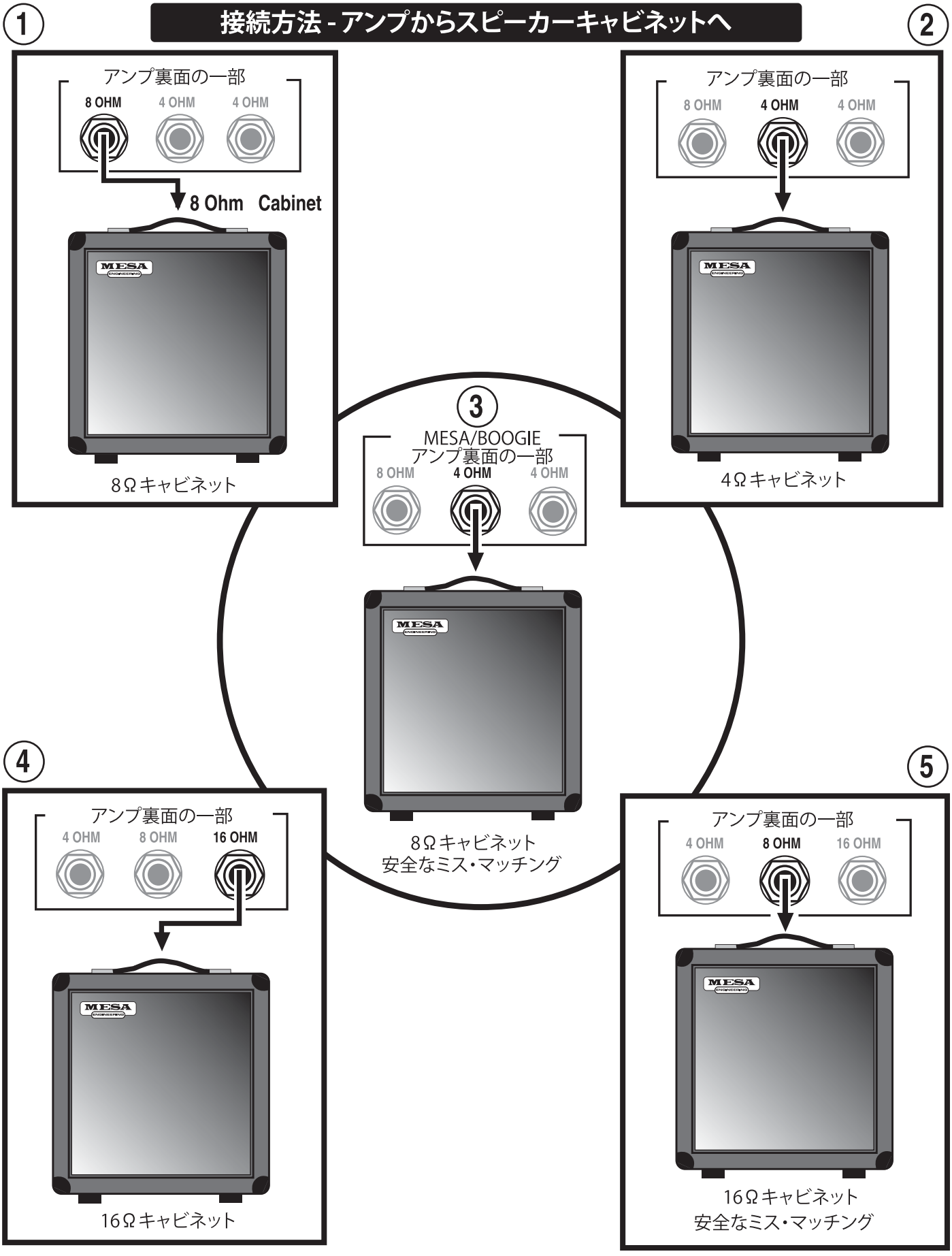
スピーカーAのプラス端子とスピーカーCのプラス端子を接続。

スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのプラス端子を接続。次にスピーカーCのマイナス端子とスピーカーDのプラス端子を接続。

そして最後にスピーカーBのマイナス端子とスピーカーDのマイナス端子を接続します。

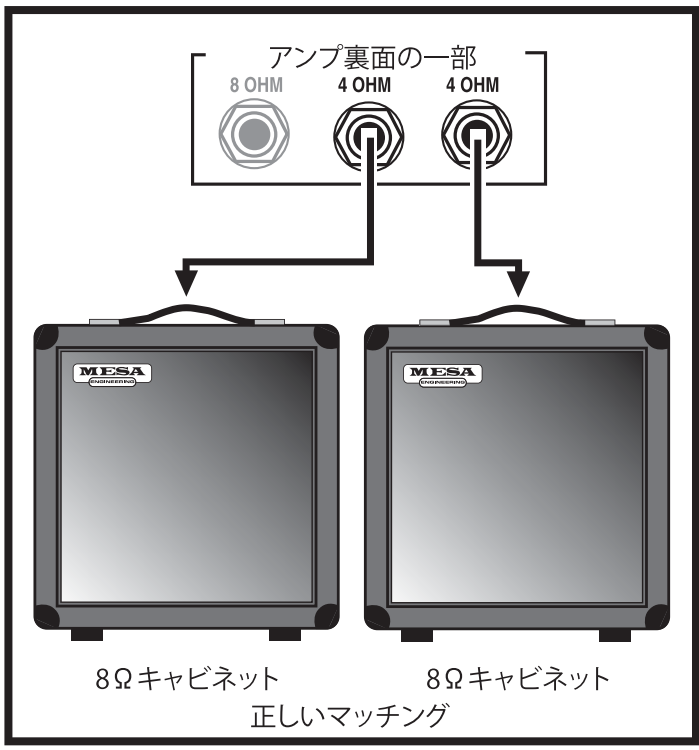
４台の８オーム・スピーカーをシリーズ・パラレル接続した時の合成抵抗値は、８オームになります。

接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

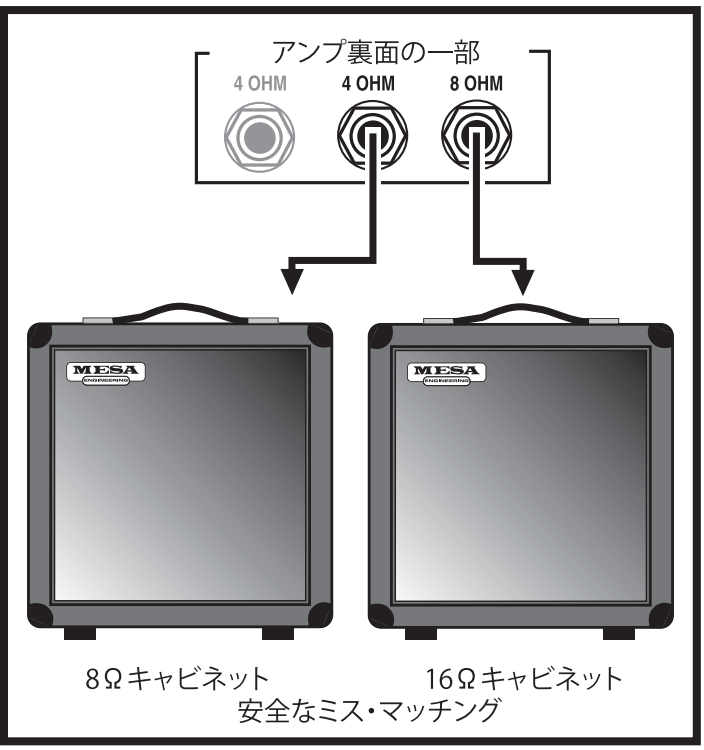


接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

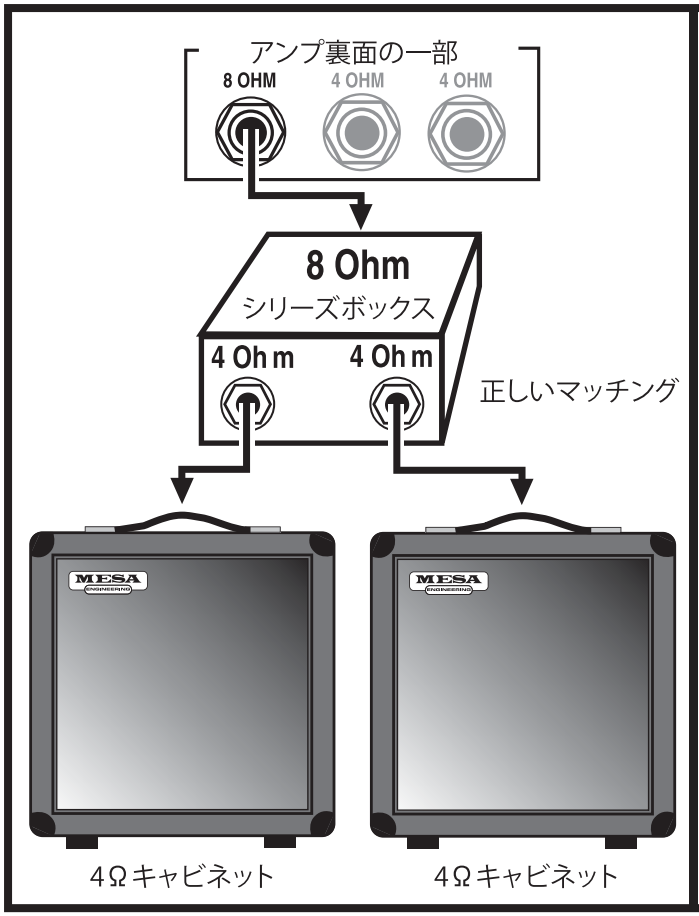
6



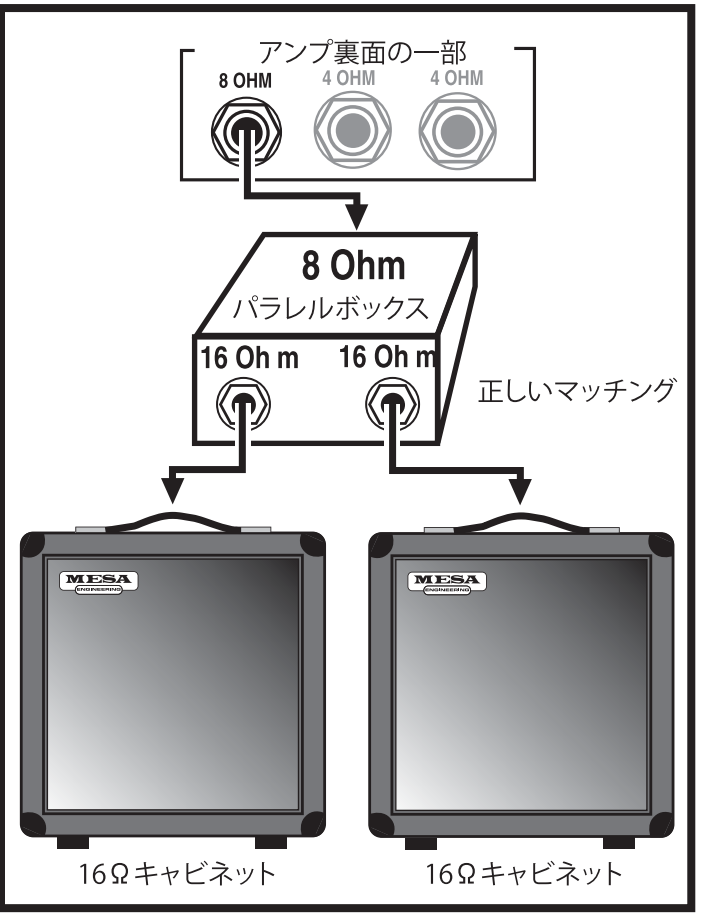
7



8

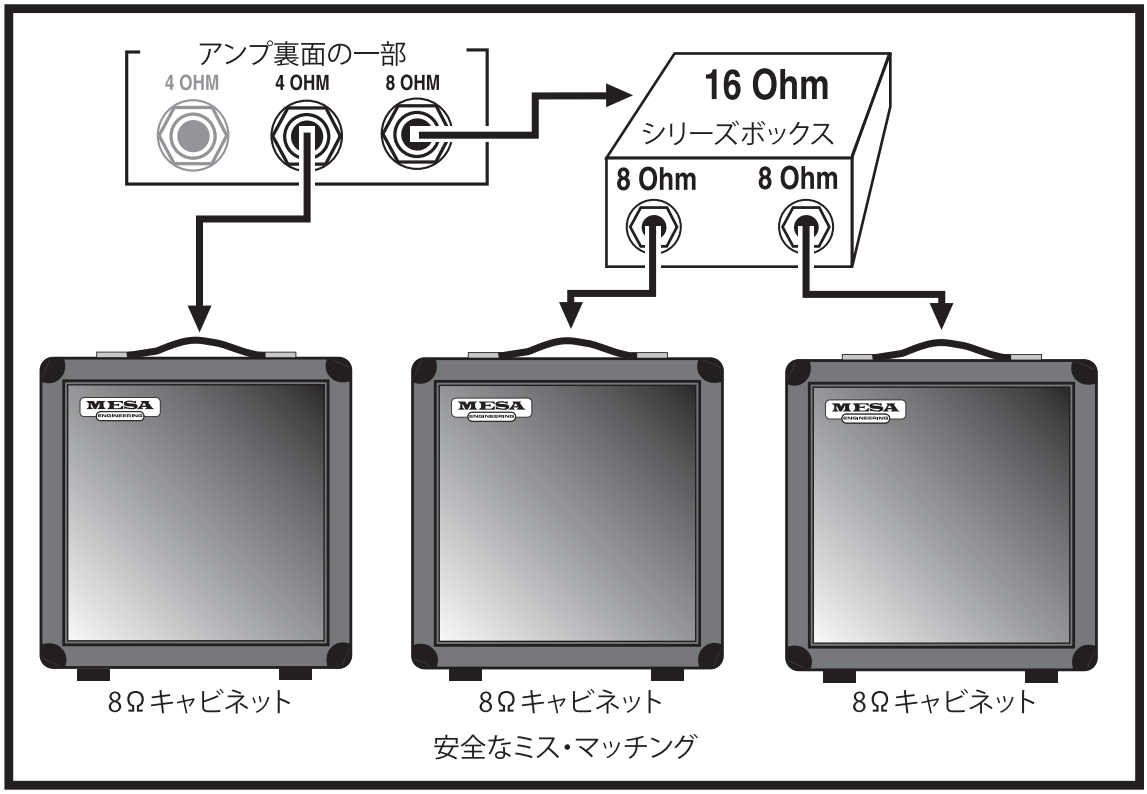


9

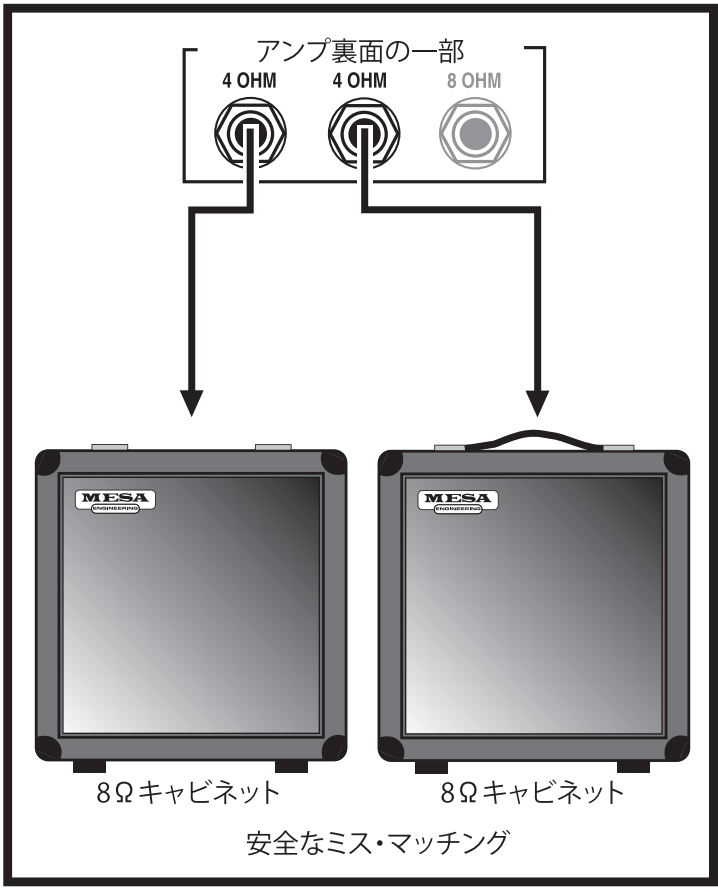


接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

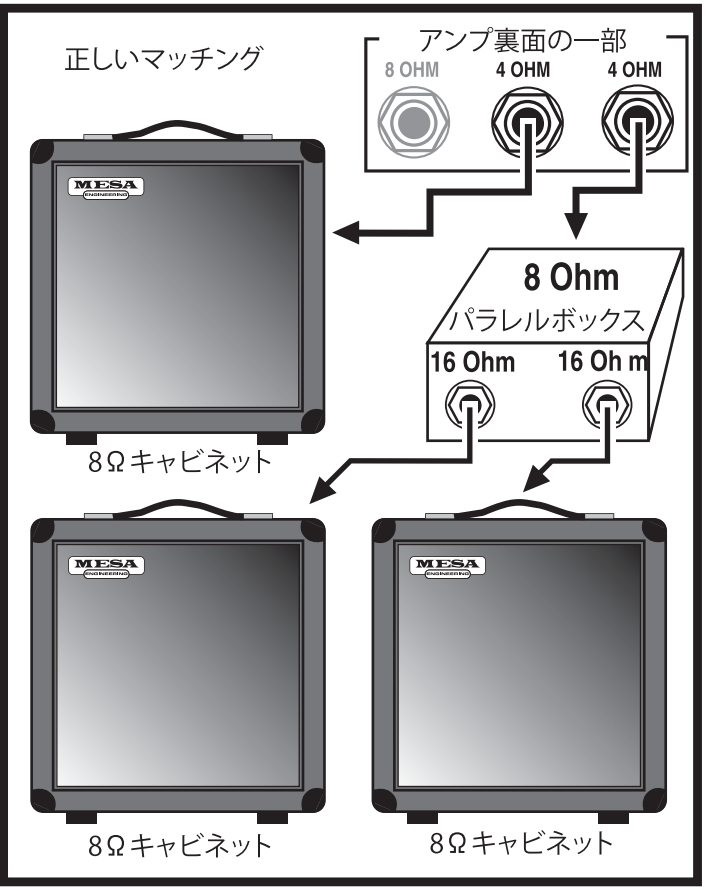
⑩



⑪

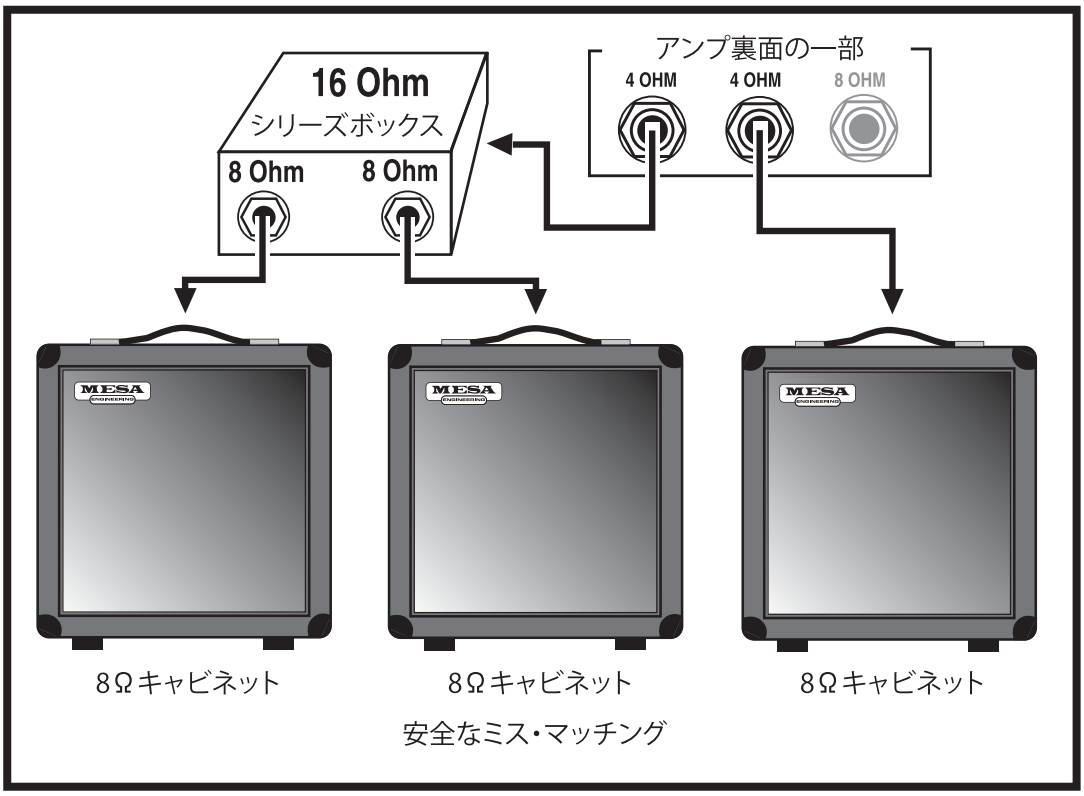


⑫

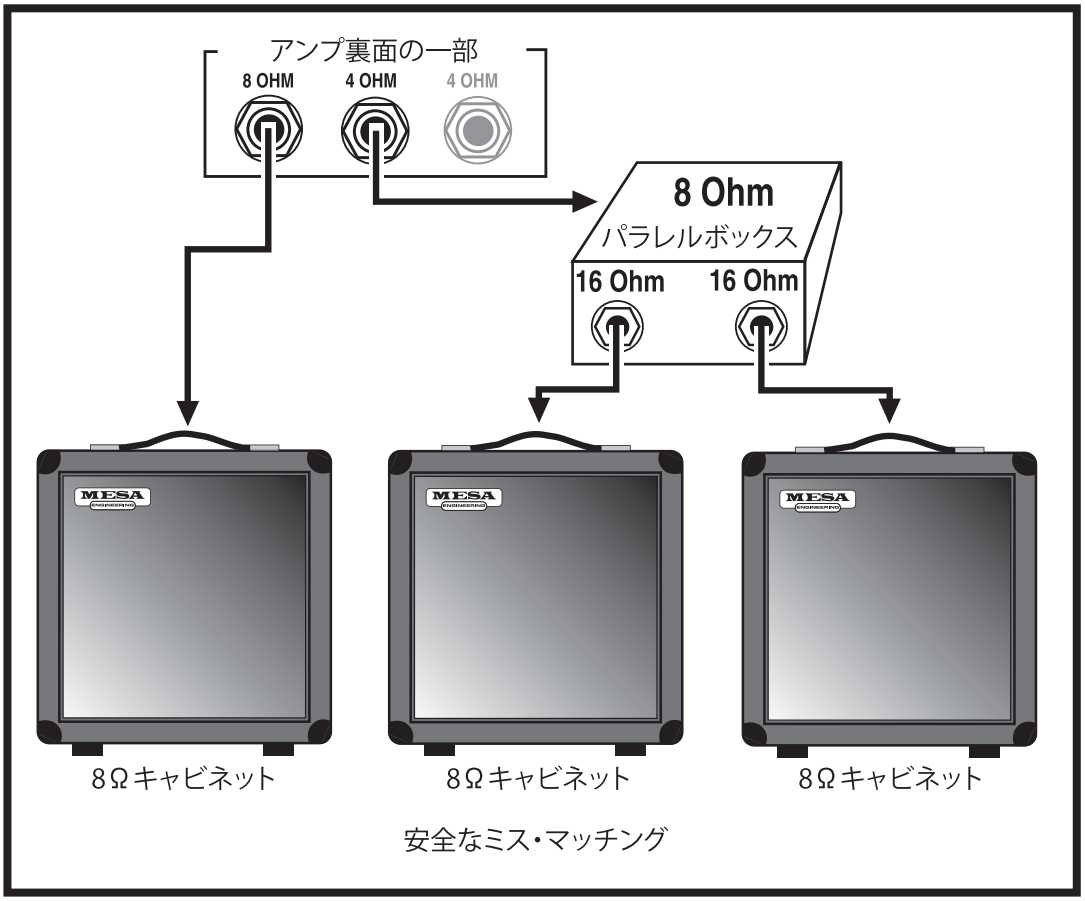


接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

⑬

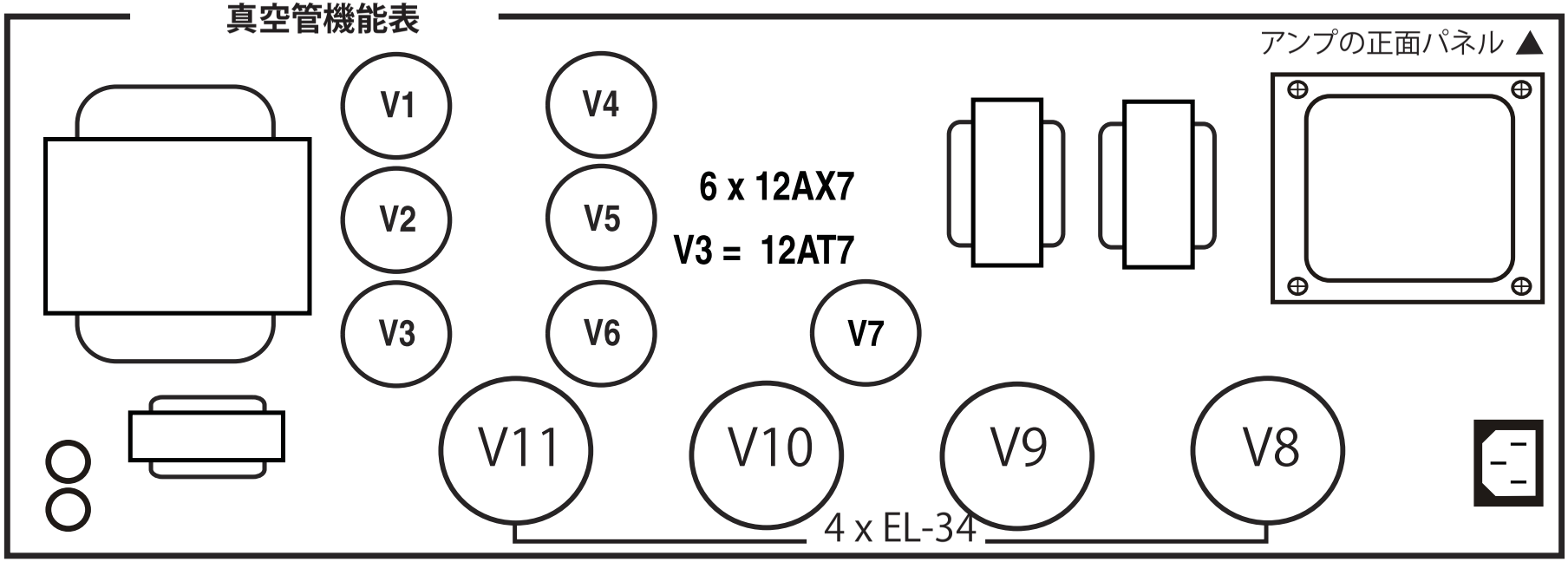


⑭



RA-100 Head

真空管を交換する前に必ず電源を切ってください。



プリアンプ真空管

V1A - Vintage Hi & Lo ゲイン第 1 段
V1B - Vintage Hi ゲイン第 2 段

V2A - Vintage Lo 第 2 段
- Vintage Hi 第 3 段
V2B - Vintage Hi & Lo コントロール・ドライブ・ステージ

V3A - エフェクト・センド
V3B - エフェクト・リターン

V4A - Clean ゲイン第 1 段
V4B - Clean ゲイン第 2 段

V5A - Clean ゲイン第 3 段

V6A - リバーブ・センド
V6B - リバーブ・リターン

V7A&B - ドライバー、フェーズインバーター

パワーアンプ真空管

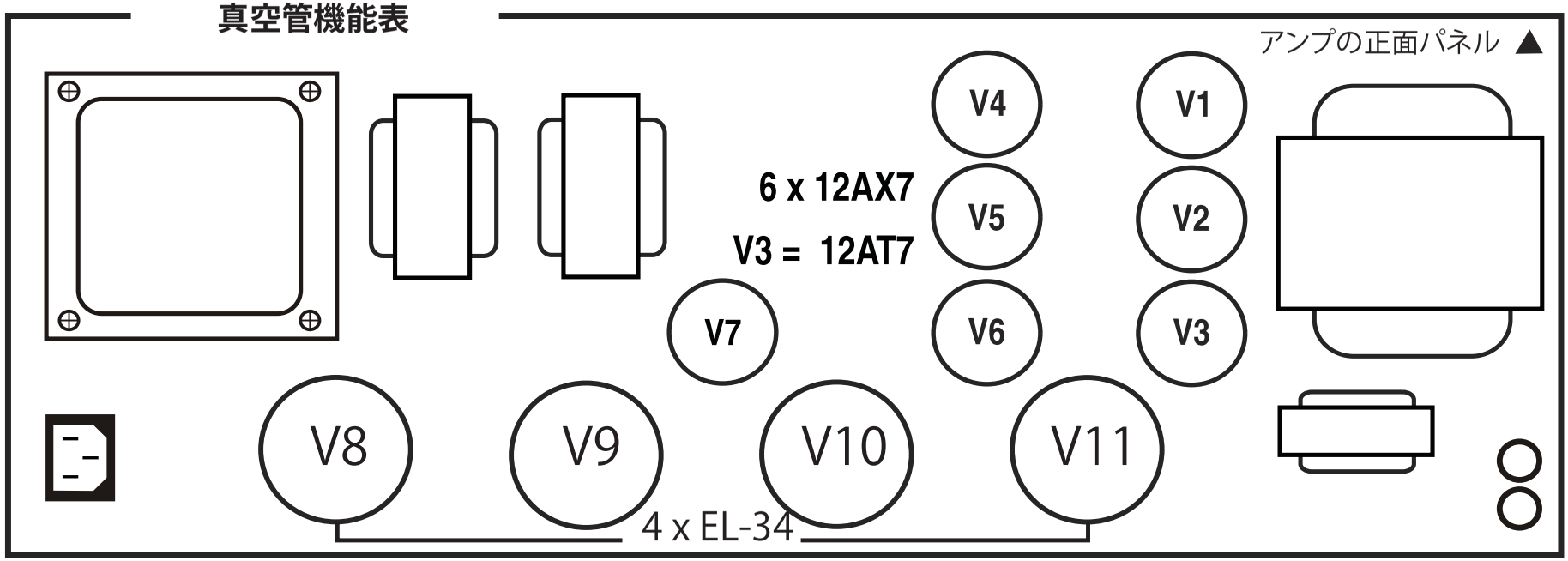
100 Watts = V8, V9, V10, V11

50 Watts = V8, V11

RA-100 Combo

真空管を交換する前に必ず電源を切ってください。

真空管機能表



プリアンプ真空管

V1A - Vintage Hi & Lo ゲイン第 1 段
V1B - Vintage Hi ゲイン第 2 段

V2A - Vintage Lo 第 2 段
- Vintage Hi 第 3 段
V2B - Vintage Hi & Lo コントロール・ドライブ・ステージ

V3A - エフェクト・センド
V3B - エフェクト・リターン

V4A - Clean ゲイン第 1 段
V4B - Clean ゲイン第 2 段

V5A - Clean ゲイン第 3 段

V6A - リバーブ・センド
V6B - リバーブ・リターン

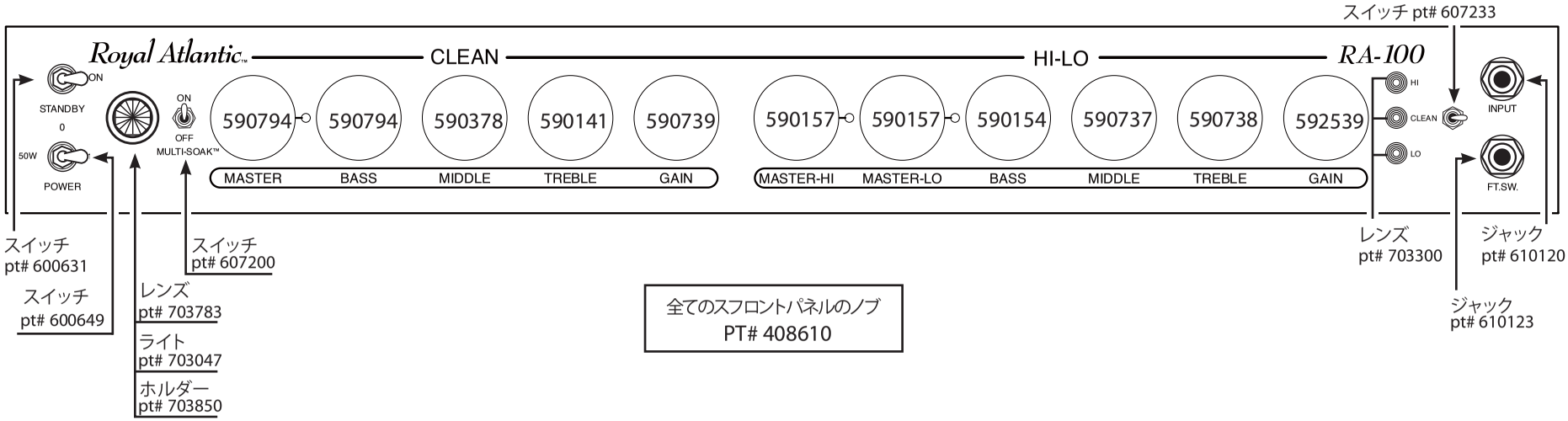
V7A&B - ドライバー、フェーズインバーター

パワーアンプ真空管

100 Watts = V8, V9, V10, V11

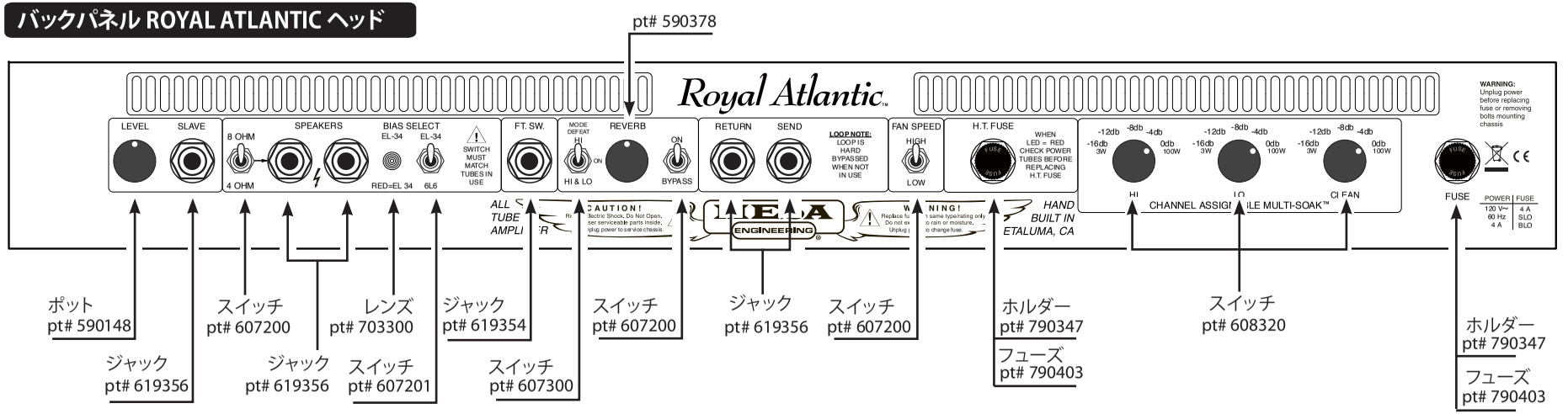
50 Watts = V8, V11

フロントパネル ROYAL ATLANTIC ヘッド



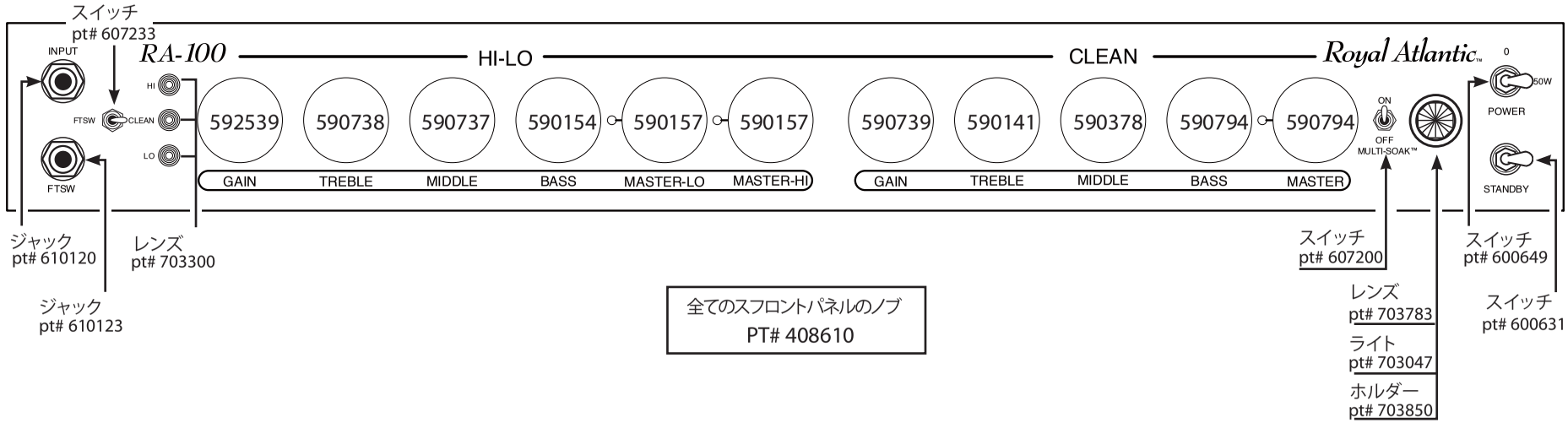
全てのスフロントパネルのノブ
PT# 408610

バックパネル ROYAL ATLANTIC ヘッド



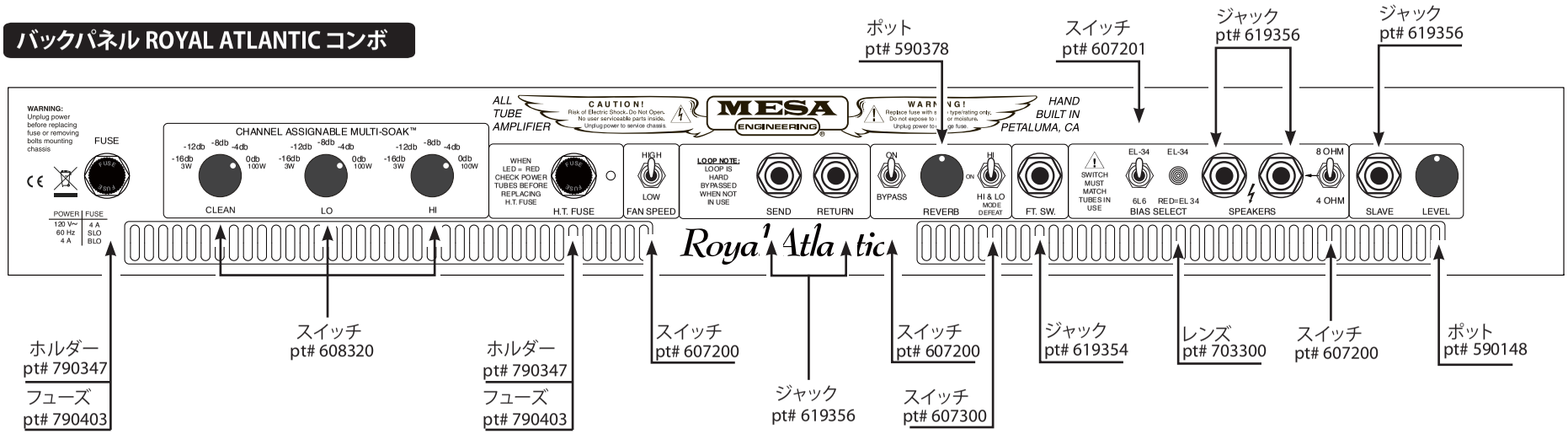
全てのスバックパネルのノブ
PT# 408113

フロントパネル ROYAL ATLANTIC コンボ



全てのスフロントパネルのノブ
PT# 408610

バックパネル ROYAL ATLANTIC コンボ



全てのスバックパネルのノブ
PT# 408113

The Spirit of Art in Technology

MESA ENGINEERING

正規輸入代理店

株式会社　キョーリツコーポレーション

本社
〒468-0002 名古屋市天白区焼山1丁目813番地
カスタマーサポートセンター
TEL (03)5614-2081 FAX (03)5614-2166
support@kcmusic.jp